

第 48 回日本 PTA 関東ブロック研究大会 茨城大会

報告者 富士市 P T A 連絡協議会  
副会長 深澤 大介

平成 28 年 10 月 21 日(金)~22 日(土)

1 日目：第 4 分科会 ひたちなか文化会館

事例発表 「現状に合った組織の見直しと PTA 活動」

千葉県富津市立天羽中学校 PTA

講演 「幕末における組織運営のあり方」

歴史作家 河合 敦 氏

2 日目：全体会 ひたちなか市総合運動公園体育館

記念講演 「深い学び」と思考体力

東京大学教授 西成 活裕 氏

講演が「新選組と松下村塾」を比較した組織運営のあり方ということで、歴史好きな私の興味をそそり、第 4 分科会に参加しました。

講演の前に PTA 事例発表が 3 校ありましたが、千葉県の天羽中学 PTA の発表が非常に興味深いものだったので報告します。

最盛期は 800 名の生徒数だった学校が現在 169 名まで減り、従来の PTA 組織では役員の選出が成り立たなくなり、大幅な組織改訂を行ったということです。

具体的には保健体育、研修、広報、環境、文化厚生と 5 つあった委員会を保健体育、研修広報、環境文化の 3 つの委員会にし、統合した 2 つの委員会の事業も似通ったものは 1 つにまとめ事業数も削減したということです。これにより 1 人が何役もやらなければならない負担が軽減し、役員選出を巡るトラブルも減ったということです。

天羽中学ほどではないにしても富士市でも少子化で従来の体制では PTA の役員選出が成り立たなくなっている地域もあります。富士市では生活指導、環境整備、成人教育、体育保健、家庭教育と名称は多少違うかもしれませんが、各校この 5 つの部会で構成されていると思います。市 P もこれを前提として研修会を開催していますが、今後富士市でも単 P の思い切った改革が予想されます。各校の実情を踏まえ、市 P の運営も柔軟に対応しなければならないと思いました。

「幕末における組織運営のあり方」では新選組が絶対的なリーダーの下、規律を重んじ破った場合は切腹という恐怖で組織をまとめたのに対し、松下村塾は組織の維持ではなく、組織から日本を動かす人材を育てるということに主眼を置いた運営でリーダーを育てる組織であったため歴史上の評価が高いということです。

河合氏は大河ドラマの監修も行っていて、歴代の低視聴率に終わった作品の共通点は歴史的資料の少ない女性が主人公ということで、来年の浜松が舞台の女武将直虎も心配していました。